



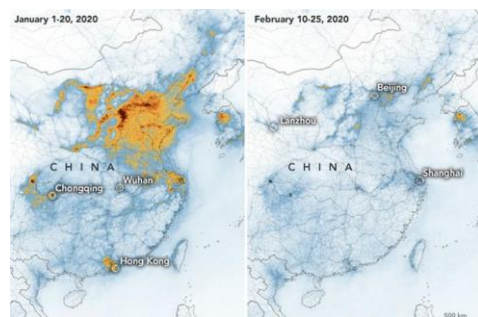
「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

世界中のこれからのために

新型コロナウイルスが発生してからもうすぐ半年を迎えようとしている。悪いことやネガティブなことは連日報道されているが、「良い影響」があったことも忘れないでいたい。

●環境問題改善のきっかけに(2020年2月28日)

ロックダウンにより工場や物流、車の流れが止まることになった。その結果ずっと大気が汚染されていた地域で、青空が観測された。例えばインドでは大気汚染濃度が去年は68%だったものが今年17%にまで下がっている。これらの数値が出たことで問題提起しやすくなり、大気汚染問題解決に一步近づいたといえる。



NASA の人工衛星によって示された大気の成分の変化。(https://earthobservatory.nasa.gov)

●医療環境の見直しと発展(2020年4月6日 日経新聞)

今回、コロナウイルスが流行ることにより、良くも悪くも各国の医療制度の差が浮き彫りになった。世界には体調を悪くしても病院に行くことができない人もいます。医者が足りない国もある。もちろん現地で医療サービスを提供するのが一番だが、この情勢の中で重要視されたのは、AIでの問診、遠隔医療サービス制度を整えることであった。これは途上国だけでなく先進国でも同様である。少し体調を崩しただけであったり、病気ではないが病院に行く必要がある人にとっては、外に出る負担もなくして診察を受けられるようになった。誰にとっても健康である権利はあるはずである。効率よく自分の健康状態を知ることができ、正しい医療を受けられる環境づくりはこれからも続けられるだろう。



For remote areas, doctors interview patients online.
バングラデシュで行われている遠隔地の患者への遠隔医療サービス

(https://www.fnn.jp/articles/-/39981)

今回のコロナウイルスとの戦いは人類にとって途方もない悲劇です。起きなければよかったというのは当然の意見です。しかし、この戦いを繰り広げたことによって、良い影響が起きたことも確かにあります。

日本ではこの時期に流行するインフルエンザの感染者が例年より450万人も減少したと報告されています。また、テレワークが促進されたことによって、仕事はもちろん、勉強や医療にもたくさん良い可能性が見えてきました。

しんどいことはあったかもしれませんが、それももう少し続くかもしれません。でも、世界のこれからの良くなることは間違いありません。「みんなに会いたい」、「勉強がしたい」、「これから自分はどうなるんだろう」など、将来や自分のことや社会のことを少し見つめるきっかけにもなったのではないのでしょうか。(西出)